

寛永諸家譜

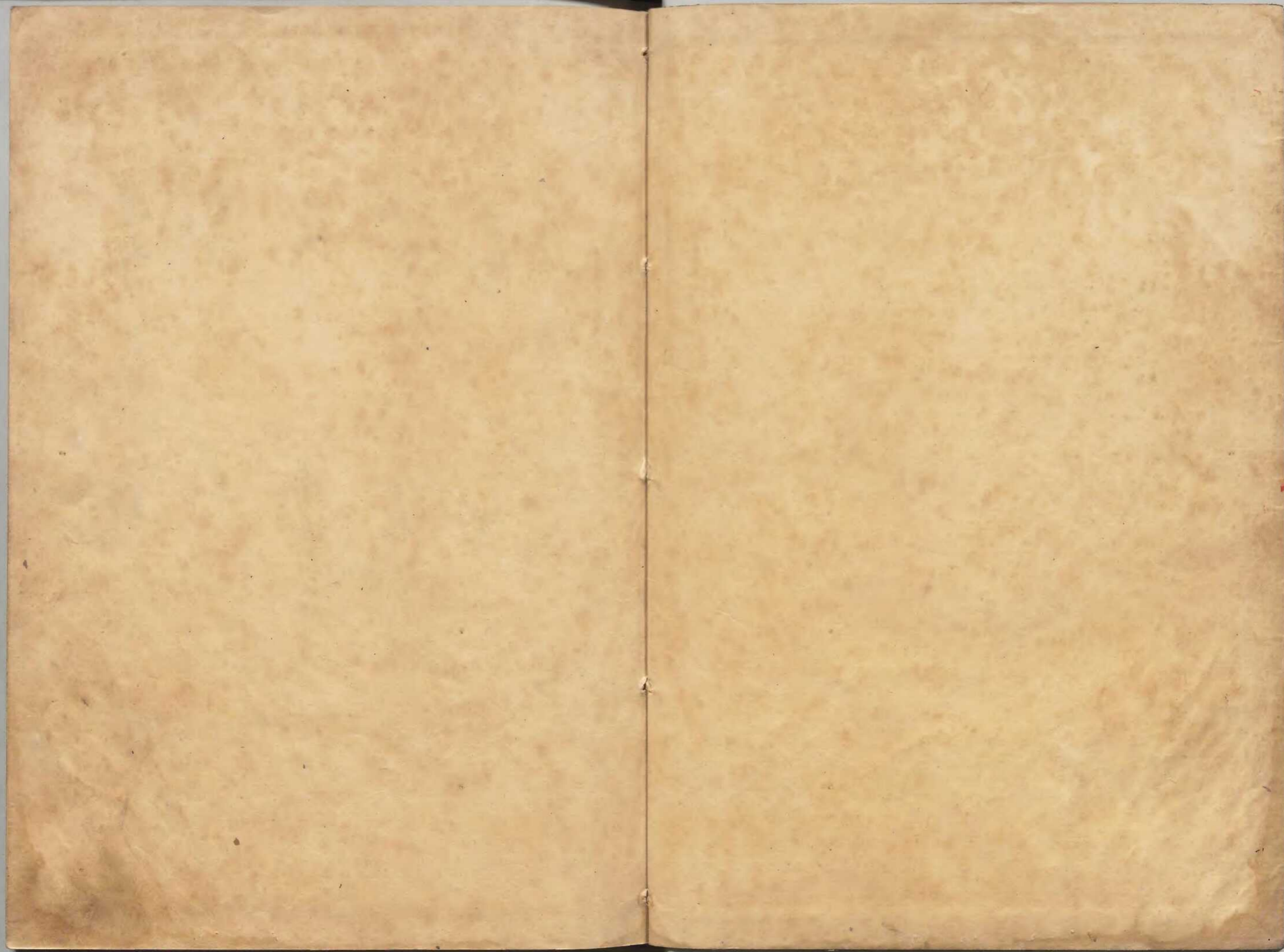
小野氏

167

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (167)
函號	特 76 1



裏面記載のない箇所は省略



横山

小野

墨形

墨

黒川

精儀

永見

今村

本形

萩原

寛永流家系書傳

小野姓

横山

今會三十一代

敏達天皇

春日皇子

妹子

江列流賀小野村
小野の姓流
居と故

淺草文庫

毛人 けいひと

大濂冠 たいせんくわん 中納言 ちゆうなごん

小野 せの 伝 でん

元野 げの

正二位中納言 せいじにちゆうなごん

永見 えいみ

后五位下 ごごいげ 陆奥介 りくおのすけ 征夷大将軍 せいゐのだいしやぐん

岑守 せみもり

后五位下 ごごいげ 冬儀 ふゆぎ 刑部卿 けいぶせい

曾 そう

冬儀野 ふゆぎの 相公 さうこう と号 ごう

保彌 やとひ

正五位下

河波 かゐ 守 もり

忠範

後五位上

義村

後五位下

好長

葛絵

道風

忠時

時仲

時季

澄泰

後四位下

義澄

横山 野太夫と

資澄とよひら

經魚とよひら

横山次郎大丈

隆魚たかひら

時重ときしげ

同

同檢守とよひら

時廣ときひろ

時魚ときうら

同

同左子物

重時しげとき

野内のち重名しげな大房おほふら

時久ときひさ

野内のち太郎

時盛ときもり

考時かうとき

同左とよひら

同太郎

時治

横山大膳

時安

横山権守

時忠

同法部

兼氏

同山城

常時

同右少允

兼宗

同右兵衛

時直

同之郎左衛門

兼友

同式部

時永

同野太夫

時新

同内記

時家

同右郎太郎

兼長

同清三郎

松山和花
小巻

書

長時

同法左衛門

魚康

同之郎太夫

魚則

同雅樂頭

時澄

同將監

長澄

橋山平太夫

長澄より養濃より越前の國より
 中ノ御宗肥前守村長より入て旗本
 とたり
 天正十一年四月廿二日秀吉より家田
 修理亮勝家江列柳瀬より
 致し御宗肥前守一方乃大納言より
 長澄旗本進め軍切とぬらん
 討死し歳四十二

長知

同山城守

義徳國多藝郡垂井の唐人あり

父と同越前よゆ

天正八年十月歳少く母は利長

〜は〜

同十二年頃、同務物か加美越前此

境為越の城〜あり利長その色

「お長さ〜是とせし城中乃昔いづく

〜長知印牧次郎兼と陸

とあ〜を庇成〜母り歌返〜

利長母〜感慨あり

同十一年秀吉筑業〜ゆ〜

四月朔の先石の城と攻け時母は利長

蒲生氏郷と五先〜と長知陰と

大平寺時別城橋〜す先〜け〜

〜め〜〜せあお〜と利長大小感

て地敷を有してしむる

同十八年秀吉小糸氏攻め征する時

美根山とやめりし小田原の城ははく

将家利家回利長中山道より上列

一とく大道を渡河さし播磨松枝

城をせし長念士平より下きて

曰あ城よりしむるよせめおとすと又八五

分の城をせし時利長を智の士と又

と率く誣ぎはよ着長念一書

城一宗城中の善経成りてを念

が膝をけこつてぬこ石垣の下に抛

利長を去り進め城中の善経をせし

折殺し即日小糸氏と父子ともに

長念の骨と感してしむる

慶長六年八月より利長大軍城

發してか列大正の城を攻めしむ

長念は膝をけこびよりのしむる

の善経を率て一書し金丸と書れ

あはれしよりして軍方の軍務を丸
くせせ入即時くせせふくく
玄蕃元が首領きりりく執

曰十九年元和元年大坂支那陣
松平肥前守利常が陣と名
先鋒と有りて軍切あり山陣の
後

西陽前本多依波守と有りて御使
として之方と感し終ふ

元和元年閏六月十九日
叙と

康玄

横山大膳

長重

左衛門

康次

主

女子

貞元

横山太佐

十二歳

名酒院殿

寛永十二年四月十八歳

同九年八月十八歳

同九年

同九年八月十八歳

同九年八月十八歳

同九年八月十八歳

寛永十二年四月十八歳

長治

神名式部

神名信濃守喜子と成次有

神名中号

長昌

神名丹波守

隆正

同大差少補

常子

同中務少補

長治

同右長束

長之 ながゆき

同日 ついで

女子

ふていこま
名波 彰二 あきひ

女子

女子

魚 いし

横山 大学 よこやま

童 わらわ

同日 ついで

宗しよ系けい

回わい自じ眼がん

長ちやう樂らく

回わい雅や系けい

女子

之し輪りん自じ水すい系けい

女子

早さい世せい

女子

山やま崎さき長ちやう門もん系けい

女子

成なり田でん物ぶつ九く郎らう系けい

女子

玉井 助太夫の書

女子

水野 内通の書

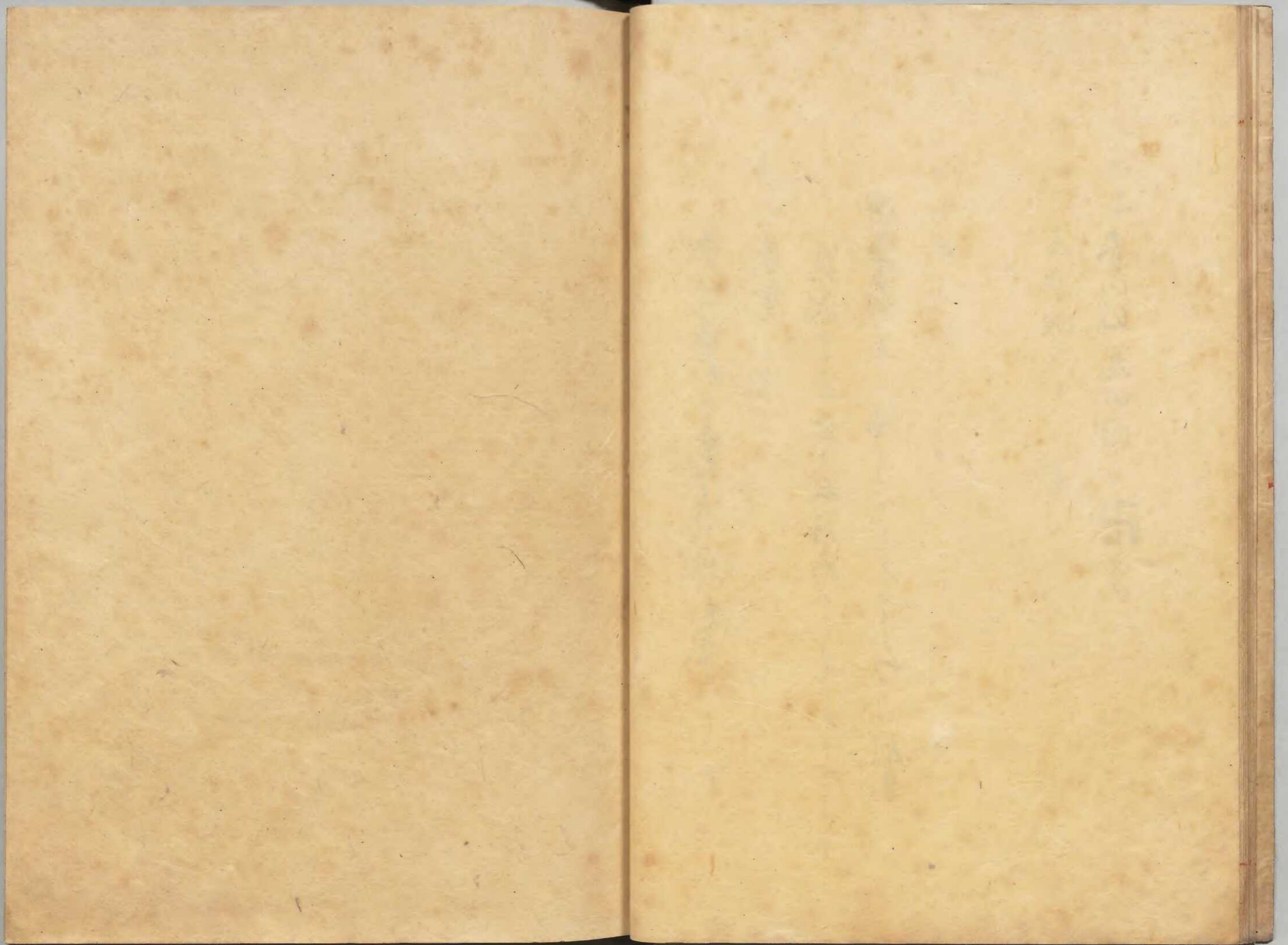
知法の書

横山 内記 生國の書
河小那

突は長た知ち子こなり 真ま知ち卒そつ一いつて
家か督とくとと續つ

寛永十三年 乙卯 月づりくととりり
將軍家の一いつ福ふととりりととりり知ち知ち
乙お子こととたたままりり

家の級 九の内の 卍まん字じ



清改

源物 生國冬河

大指現とよび

名産改版一ノ決ク一ノ決ク

横山

親改りくまう

九在束の生國同あ

大指現とよひ

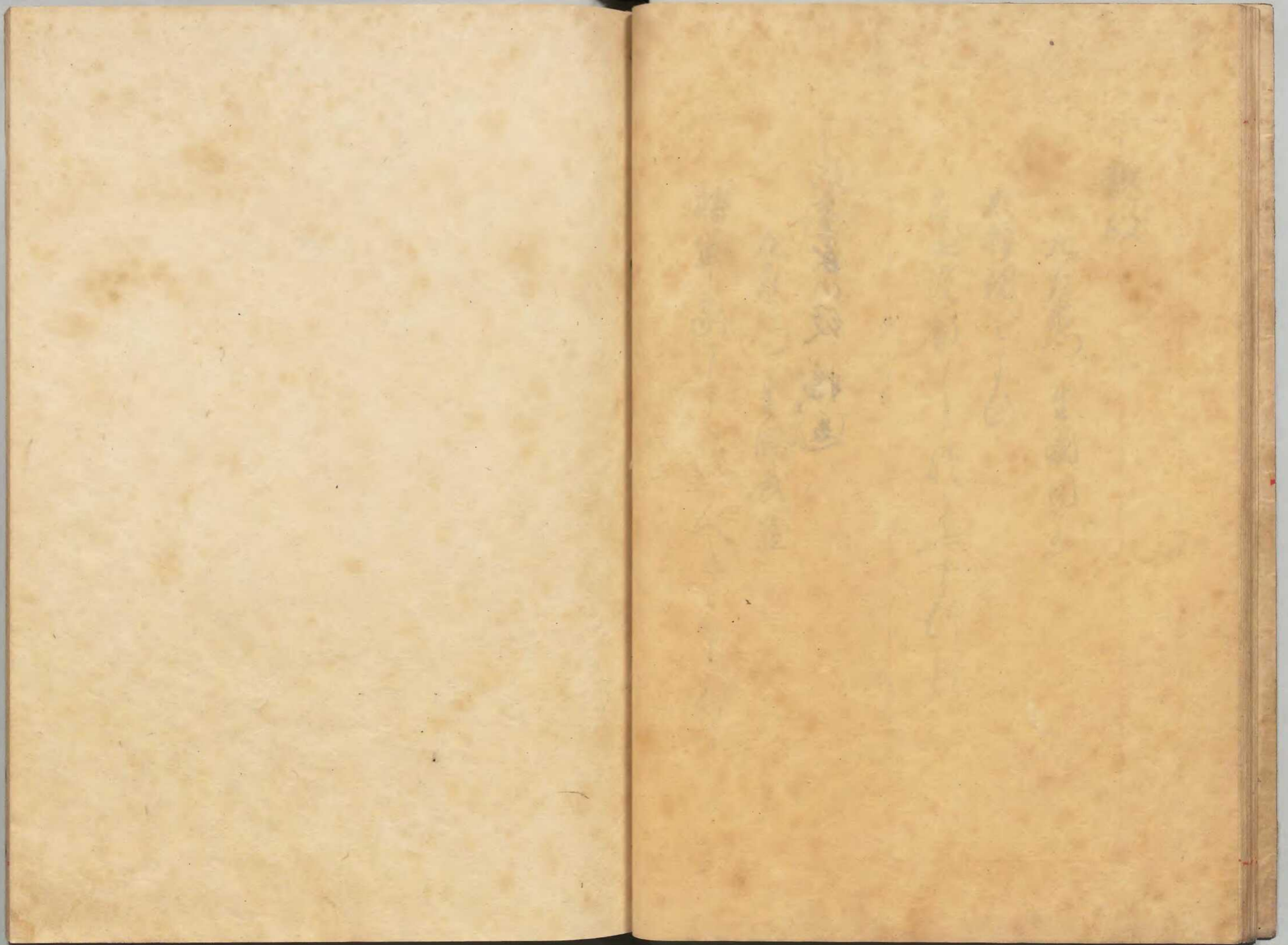
名証院殿一法ふまひり

政廣まうひろ

九在束の生國武義

將軍あ一法ふまひり

家の紋つちぎ



横山 よこやま

一友 いつとも

對馬 たいま

生國武藏

常陸府中の城主大塚清久小治久

一右 いつみぎ

跡古郎

生國常陸

大指現を列漢松河互城の時を

て勅修しつゝくまらる

享長九年より死に歳軍八法名

引傳

一重

友直書

大指現とよび

台座院殿

將軍家より流しつゝくまらる

寛永十一年の納戸取とあり

同十六年より死に歳軍八法名

一政

生國武藏

台座院殿とよび

將軍家より流しつゝくまらる

一常つね

市左衛門 生國同前

寛永十三年より

將軍家より稱揚して

同十六年より小姓組の番として

一分いちぶ

大老

一義いちぎ

小右衛門

一通いちど

甚大尉

寛永十六年

將軍家より相賜して

同年より書院番として

一房いつぶら

平ひら屋や

家いへの紋いりもん 名な簿ぼ

● 忠重

小野

とハ 伊豆氏より母の姓くしりて
小野と用

桓武天皇寛平の孫なる皇孫十代の
苗裔なり母は小野菅の末孫小
次郎経隆の女

重行しげゆき

小野太郎と号す

重光しげみつ

重房しげぶ

重徳しげとく

徳也とく

次郎

太郎景

忠高ただたか

太郎左衛門

重景しげかげ

太郎つとむ後のち上のうへ列りゅう新しん田でんよよ梅うめ

重高しげたか

太郎つとむ後のち豊ゆたか後のち号なづかと号なづかと上のうへ列りゅう新しん田でん

一 領と

弘治二年八月五日卯に死す歳六十五
法名道悦

高継

太郎 後豊後守と号す

初 新田家小治之長尾但馬守時長

一 属して政務と号す

と列 新田内小林村 館林 土橋郷

川 僕郷 舟後川村 野列 足利郡

内と塩多利 下塩多利と号す

正心十四年八月廿七日一死す

道号 小月禅光

高政

左馬助

関東の武士とく

大権現の権魔小属とけし

大指現ハ江戸の城ヨリ守ヨリ改

石ノ懸ト云クドクク湯見^{ユヅミ}ノ事

これヨリして江戸氏とありて

小野と称ス

安永五年九月ヨリ

信濃^{シノノ}殿ヨリ信之^{シノノ}ヨリ信列^{シノノ}ヨリ

陣ノ信也

元和元年九月ヨリ一ノ元ノ歳

八月^{ヤシ}信名^{シノノ}云

信濃

左馬助

安永七年正月十日ノ歳十二ノ事

~~~~~

信濃<sup>シノノ</sup>殿ヨリ信之<sup>シノノ</sup>ヨリ

同十六年阿部<sup>アベ</sup>守<sup>シノノ</sup>守<sup>シノノ</sup>ヨリ

伏見<sup>フシミ</sup>ノ城<sup>シノノ</sup>事<sup>シノノ</sup>云

大坂<sup>オオサカ</sup>事<sup>シノノ</sup>云

属して信守と

元和二年

左座院殿小寺<sup>らざえん</sup>と海<sup>うみ</sup>よと<sup>う</sup>びひ<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>つ<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>後<sup>あ</sup>府<sup>ふ</sup>

同三年<sup>どうさん</sup>高木<sup>たかぎ</sup>取<sup>と</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>正<sup>ただ</sup>よ<sup>よ</sup>属<sup>しゆ</sup>志<sup>し</sup>と<sup>と</sup>又<sup>また</sup>伏<sup>ふ</sup>

見<sup>み</sup>の城<sup>しろ</sup>妻<sup>つま</sup>成<sup>なり</sup>つと<sup>と</sup>し

同五年<sup>どうごねん</sup>五月<sup>ごご</sup>八日<sup>はちにち</sup>

左座院殿小寺<sup>らざえん</sup>と海<sup>うみ</sup>陽<sup>やう</sup>よと<sup>と</sup>し

同七年<sup>どうしちねん</sup>又<sup>また</sup>高木<sup>たかぎ</sup>取<sup>と</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>正<sup>ただ</sup>よ<sup>よ</sup>属<sup>しゆ</sup>志<sup>し</sup>と<sup>と</sup>大<sup>だい</sup>

坂城<sup>さかしろ</sup>妻<sup>つま</sup>成<sup>なり</sup>つと<sup>と</sup>し

同九年<sup>どうくねん</sup>七月<sup>しちご</sup>十一日<sup>じゅういちにち</sup>

將軍家<sup>せんぐんけ</sup>涉<sup>せつ</sup>と海<sup>うみ</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>正<sup>ただ</sup>信<sup>しん</sup>守<sup>しゆ</sup>と

寛永<sup>かんえい</sup>永<sup>えい</sup>元<sup>げん</sup>年<sup>ねん</sup>相<sup>あ</sup>年<sup>ねん</sup>方<sup>かた</sup>重<sup>おも</sup>重<sup>おも</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>属<sup>しゆ</sup>志<sup>し</sup>と<sup>と</sup>

大坂城<sup>おおいさかしろ</sup>妻<sup>つま</sup>成<sup>なり</sup>つと<sup>と</sup>し

同三年<sup>どうさん</sup>八月<sup>はちご</sup>

將軍家<sup>せんぐんけ</sup>山<sup>やま</sup>と海<sup>うみ</sup>よと<sup>と</sup>う<sup>う</sup>び<sup>び</sup>ひ<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>つ<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>

同六年<sup>どうろくにん</sup>四月<sup>ごご</sup>

將軍家<sup>せんぐんけ</sup>日光<sup>にっこう</sup>山<sup>やま</sup>と海<sup>うみ</sup>桑<sup>くわん</sup>諸<sup>しよ</sup>の<sup>の</sup>信<sup>しん</sup>守<sup>しゆ</sup>と

同六年又相平あまをさし一属して  
大坂城番として

同十年四月侍奏屋敷の遠作の次  
をりたる

同十一年六月廿九日海防の修を以

同十二年大久保主膳正に属して

又大坂の城番として

同十六年又大久保主膳正に属して

後河の城番として

高行

侍之郎 生國武藏

元和元年十二月

台補院殿 相瑞

同三年九月より大津番として

同九年十月

將軍家より久大くまの御

寛永元年正月 御命よりりて

涉鉄炮茶屋の役として

乃若未

寛和九年十一月十日みり歳十ふ小  
ま〜く〜〜〜

將軍家〜〜〜

寛永三年八月涉と海の〜〜  
〜〜

同六年松平出雲守〜〜  
〜〜

大坂の城番成法とむ

同九年渡邊山城守〜〜  
〜〜

二條の城番成法とむ

同十一年六月涉と海のと記とむ

〜〜

同十二年阿部柁津守小属〜〜

又二條の城番成法とむ

同十二年大久保直勝正よ属とむ

大坂の城番成法とむ



同十也又大久保之腰正一属  
去々々後河城書成候事

家の級九の内小書持打邊

● 義光

小野

道風の後なり

小野丹波守 生國三河

天正年中一死と 法名子孫

親光

右兼生國司

大権現

名法院殿

寛永元年二月八日六十七歳

死と法名秀源

高光

麻右衛門 生國司

享長七年十六歳

名法院殿

同十二年渡邊山城守

伏見の城番

信守

跡

追

時

と述べ殿より安否對する書山城守に  
と使して休見の城書成ゆられ  
病と療すまき名 仰くさる故ふ  
同年十二月休見より  
慶長十九年渡邊山城守より  
とく休見の城書よあら故ふ大坂  
冬陣のとき此言光石川と  
兵と矢薬の鉄炮を新り奉の急  
備

元和元年大坂陣の休見は同  
五月より軍士五十人とたふ攻進む  
言光石川十人の内城援お撫の用  
京入首代石野内通頭是と書  
りげと紀歳二十九  
同五年大坂の紀元より渡邊  
山城守より屬とく後列より  
忠長卿より  
寛永十年の冬より返され

同十一年より湯丸の書と勅し

改

大業 生國武義

實ハ言光の子ナリ 祖父親光

養子とあり

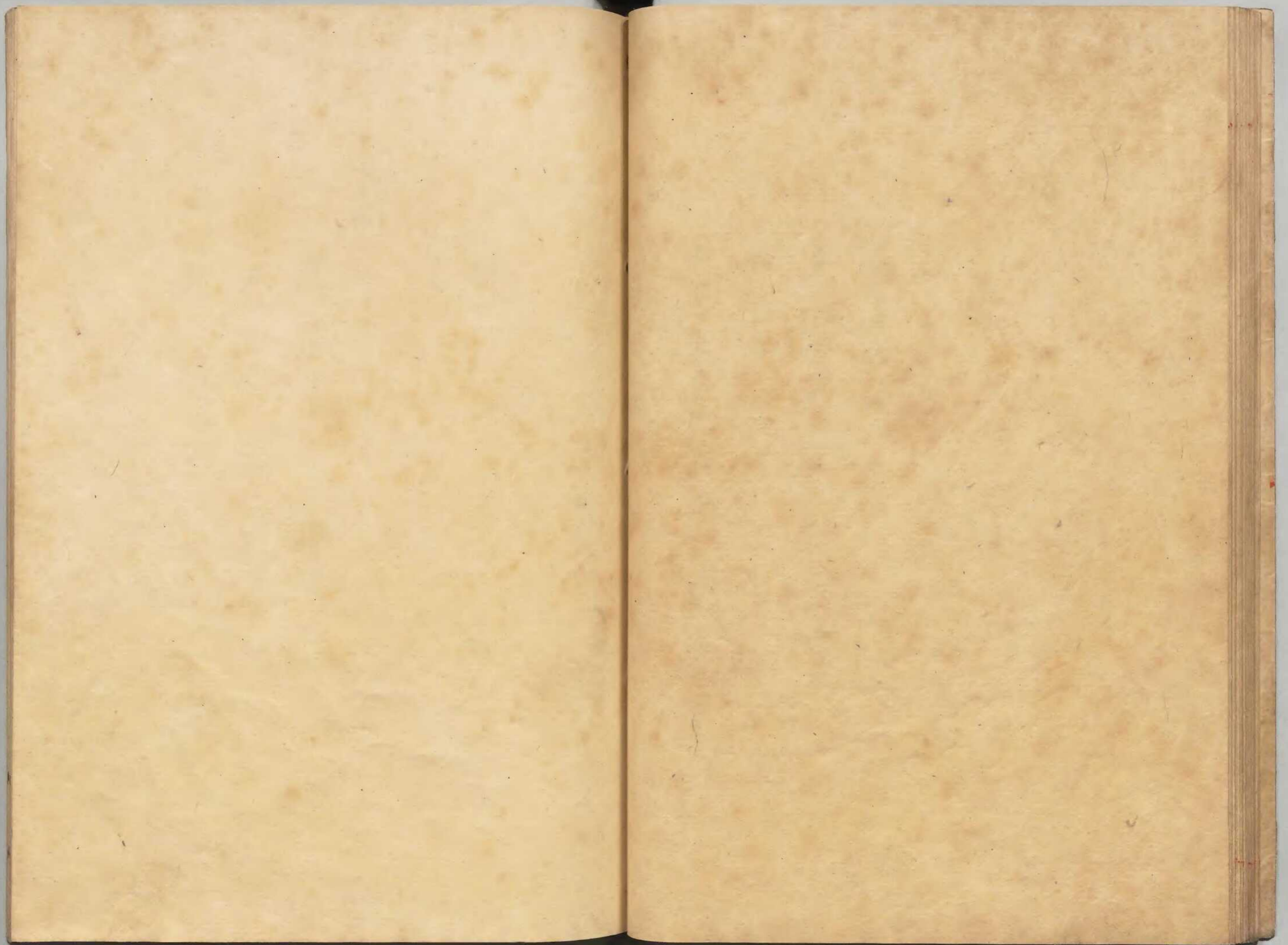
寛永元年養父親光を

ねんむ

同十一年四月よりくは書ふ入

同十二年十月後河内書

家の級摺三光



小野

貞剛

小野宗太夫の 生國迎

十六歳より三十一歳まで

大権現の湯より三十一歳より小田原

陣の供養と云々

名酒造殿と云々

將軍家しんぐんけよりつとくまつ

寛永十七年かんえいしちねんより病死びやうし法名宗琢ほうなむねたく

貞勝さだかつ

長左衛門ちやうざゑもん 生國なまくに同家

十三歳じふさんさいよりてりぐり

大指現おほさしげんよりしきまきくまつりし

名法院なほういん殿

將軍家しんぐんけよりはくま

寛永九年かんえいくねんより法名宗剛ほうなむねつらう

貞正さだちか

長左衛門ちやうざゑもん 生國なまくに同家

寛永十一年かんえいじゅういちねんより

將軍家しんぐんけよりしきま

貞武さだたけ

長左衛門ちやうざゑもん 生國なまくに同家



寛永十一年  
將軍家ヨ賜<sup>り</sup>て仕へ<sup>り</sup>ぬ

家の紋の巻九

累部

累尸六跡之忠澄が後流あり

● 忠秀

中務 日國 武彦

松田尾張守より流るる小田原より

ありそ河小糸之邸 徳信の養子

也なりて越後國よりおしき 徳信

紀元の後、之甥、嘉平次と小糸之良  
合戦ありと云ふ是よりして小田原  
より加藤とつゝする時、忠秀と名の  
し、小ありて越後よりあつひさ、  
討死す、歳、甲子、

忠吉

卯記 生國、同、あ

小田原、後、あ、小田原、後、あ

と、紀、小田、命、ありて、久保、田、見  
城、あ、成、つ、し、小田、原、後、あ、の、後、あ、  
歳、七、十、五

忠吉

小田原、後、あ、生國、同、あ、始、り、忠、吉、  
あ、

小田原、後、あ、

天正十八年、あ、あ、小田原、と、せ、あ、あ、

とて、相田尾渡を回長子新六郎同  
次男たる物みづが小栗氏おつたし、  
遂に成るんとて六月十の日の夜、  
て城の中へ入るよとおまじし、  
たる物又入りて、ひくく、いづくに、  
あきつかるれと、大塚志のび入る、  
か、く、く、く、く、く、く、く、  
尾渡守りのこととて、つて、回、  
あり、と、ひく、た、馬、物、又、尾、渡、を、

く、い、く、潜、よ、氏、直、の、も、  
れ、直、尾、渡、を、と、り、て、  
獄、せ、し、  
か、  
ふ、  
う、  
笠、原、越、前、を、  
尾、渡、を、自、殺、と、

のらそ骨<sup>ほね</sup>成<sup>なり</sup>むらひ七月<sup>しちがつ</sup>高野<sup>たかのの</sup>山<sup>やま</sup>  
むらむ新<sup>あらた</sup>ら島<sup>しま</sup>張<sup>はり</sup>本<sup>ほん</sup>人<sup>ひと</sup>の終<sup>はつ</sup>よ<sup>よ</sup>りて  
父<sup>ちち</sup>一<sup>ひと</sup>先<sup>ま</sup>を<sup>と</sup>く自殺<sup>じくお</sup>したる物<sup>もの</sup>の金<sup>かね</sup>  
よき<sup>よ</sup>く<sup>く</sup>ひ高野<sup>たかのの</sup>山<sup>やま</sup>の<sup>の</sup>あり  
又<sup>また</sup>縁<sup>ゆかり</sup>え<sup>え</sup>手<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>新<sup>あらた</sup>証<sup>しやう</sup>依<sup>い</sup>の<sup>の</sup>付<sup>つけ</sup>  
大<sup>おほ</sup>権<sup>けん</sup>現<sup>げん</sup>肥<sup>え</sup>前<sup>ぜん</sup>國<sup>くに</sup>名<sup>な</sup>護<sup>ご</sup>屋<sup>や</sup>一<sup>ひと</sup>沙<sup>さ</sup>也<sup>や</sup>陣<sup>じん</sup>也<sup>や</sup>  
その<sup>その</sup>と<sup>と</sup>記<sup>き</sup>畧<sup>りやく</sup>時<sup>とき</sup>は<sup>は</sup>香<sup>かう</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>く<sup>く</sup>松<sup>しょう</sup>田<sup>でん</sup>道<sup>だう</sup>  
心<sup>こころ</sup>のお<sup>お</sup>し<sup>し</sup>く<sup>く</sup>自殺<sup>じくお</sup>入<sup>い</sup>極<sup>ごく</sup>秘<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>終<sup>はつ</sup>ふ  
け<sup>け</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>へ<sup>へ</sup>一<sup>ひと</sup>は<sup>は</sup>香<sup>かう</sup>鼻<sup>び</sup>よ<sup>よ</sup>き<sup>き</sup>正<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>成<sup>なり</sup>

と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>一<sup>ひと</sup>達<sup>たつ</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>一<sup>ひと</sup>一<sup>ひと</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>を<sup>を</sup>正<sup>せい</sup>  
釣<sup>つり</sup>命<sup>めい</sup>成<sup>なり</sup>か<sup>か</sup>一<sup>ひと</sup>り<sup>り</sup>回<sup>まわ</sup>二<sup>に</sup>一<sup>ひと</sup>年<sup>ねん</sup>二<sup>に</sup>月<sup>げつ</sup>高野<sup>たかのの</sup>と  
出<sup>い</sup>名<sup>な</sup>護<sup>ご</sup>屋<sup>や</sup>一<sup>ひと</sup>あり<sup>り</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>

大<sup>おほ</sup>権<sup>けん</sup>現<sup>げん</sup>一<sup>ひと</sup>湯<sup>ゆ</sup>一<sup>ひと</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>  
同<sup>どう</sup>年<sup>ねん</sup>九<sup>く</sup>月<sup>げつ</sup>沙<sup>さ</sup>也<sup>や</sup>陣<sup>じん</sup>は<sup>は</sup>大<sup>おほ</sup>権<sup>けん</sup>現<sup>げん</sup>に  
く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>ち<sup>ち</sup>小<sup>せう</sup>山<sup>さん</sup>開<sup>ひら</sup>系<sup>けい</sup>及<sup>およ</sup>大<sup>おほ</sup>坂<sup>さか</sup>也<sup>や</sup>陣<sup>じん</sup>  
一<sup>ひと</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>ひ<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>

大<sup>おほ</sup>権<sup>けん</sup>現<sup>げん</sup>豊<sup>ほう</sup>沙<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>故<sup>こ</sup>  
名<sup>な</sup>護<sup>ご</sup>院<sup>いん</sup>殿<sup>でん</sup>一<sup>ひと</sup>は<sup>は</sup>一<sup>ひと</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>

寛永元年

將軍家より侍ふる

同二年 御命より侍ふる

狭炮の志とあづけし御命と志

しる事と侍ふる

忠房

長七郎 生國同家

長十八郎

名津院殿より侍ふる

大坂より侍ふる

元和七年 三十七歳にて病歿

正次

長七郎 生國同家

元和九年 六月

將軍家より侍ふる

継入

寛永十七年五月にらに出で立たたけ乃  
るの事こととしとし

右澄みぎすみ

久々ひさびさ 中園ちゅうえん同家どうけ

寛永九年

將軍しやうぐん家け一いつ場ば一いつ人ひと一いつ人ひと一いつ人ひと  
回まわ十三じゅうさん日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち

右房みぎぶら

六む之の物もの 中園ちゅうえん武ぶ差さ

寛永三年かんえいさんねんより

將軍しやうぐん家け一いつ人ひと一いつ人ひと一いつ人ひと一いつ人ひと一いつ人ひと

右次みぎつぎ

小次郎せうじらう 中園ちゅうえん同家どうけ

元如げんじゆ之年のねん

名德院殿ノ湯ノコトナリ

寛永元年ヨリ

將軍家ノ侍人ノコトナリ

家の紋 丸田小十字



孝貞

くろめは忠房三河守廿國公孫

思

先祖武列榛澤那思部よりわ

家傳ふそくりと思部の子孫

うらとよもふありて思と

称と

居と依竹よりうらとありしうら  
いすふいりて思と物と

孝後

自昭正

依竹義照より流ふ

孝貞

流後

依竹義照より流ふ

孝真

三河守

依竹義重同義宣より流ふ

孝貞

初發して道塚と号す

長十八年五月十二日大久保権持

右隣 安友 對馬守 重信 台徳

遠一 てりー へ、はき

右徳院殿より 存 湯一 へくまらり

元和五年

右徳院殿の 鈞命 へりー へりて

右軍家より 流く へくまらり

寛永五年 五月九日 宮内 へ法 へ

一 叙 へ

孝房

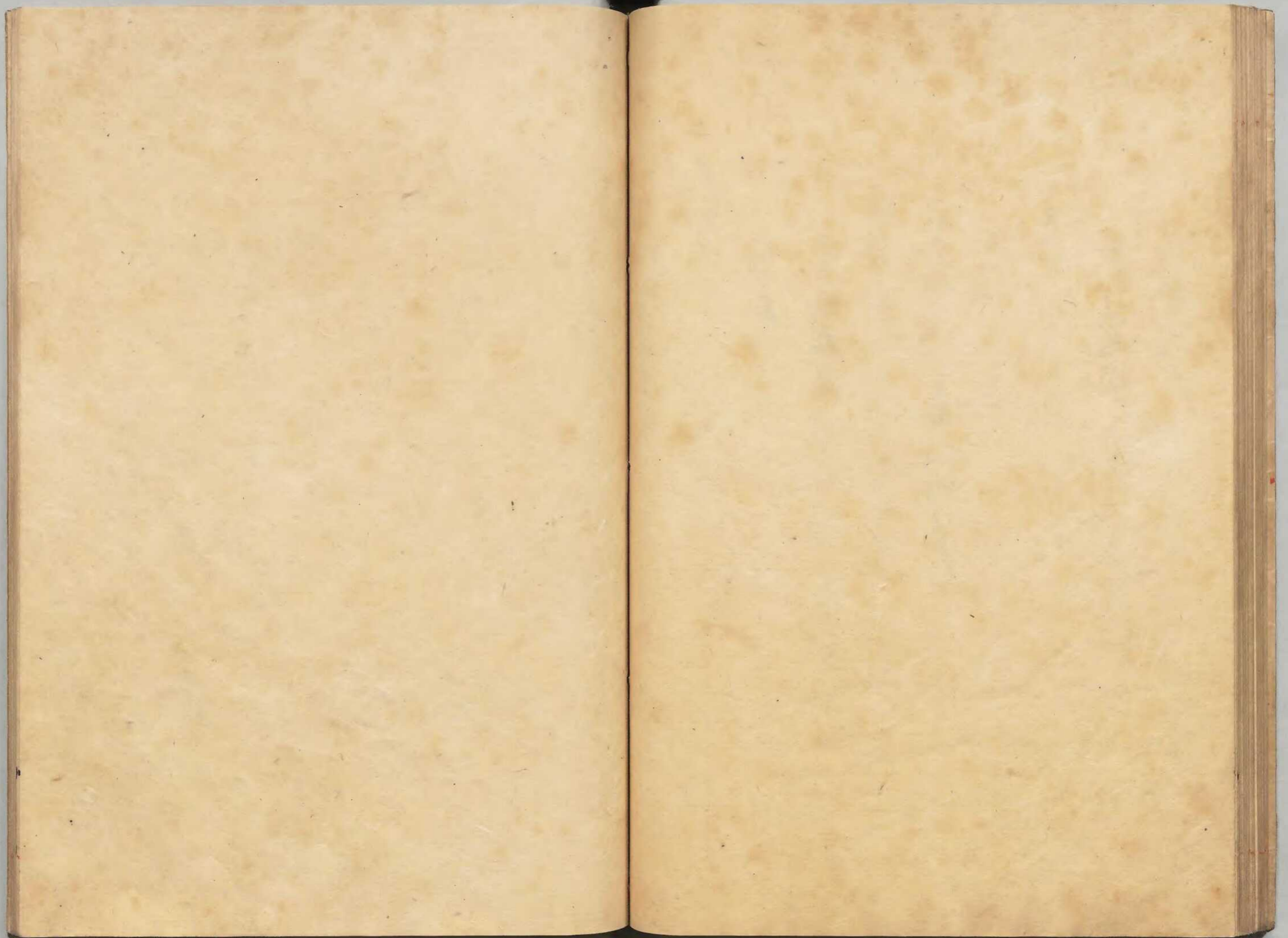
三 四 郎

元和九年 へり

將軍家より 流く へくまらり 御

小姓 組の 毒 へつ へ

家の 級 九 用 へ 十 万 今 存 へ 御 改



黒川

● 集

義仍よしのぶ 甘國陸奥

官領くわんりやう上のうへ秋あき朝あさ義よし一ひと流ながふ

上のうへ秋あきと小こ條じょう氏し康やす河か越こ少すく々々合あ戦せん此こゝ

三さん紀き父ちち子こ曰いひ人ひと討う死し

某

掃部卿

父と河越少輔の討死

某

右馬助

父とおの河越少輔の討死

某

介記

父とおの河越少輔の討死

某

掃部卿 義徳

幼年河越氏祖より一族討死

去々朝義越後へ退くものら

岩付城より小條十郎氏房より属す

安長十三の年八十の歳少く死す

正秀

右京亮 中園武彦

忠付城より小條十郎氏房より  
小田原没落のとき氏房は言野より  
赴き又備前よりかきく氏房死  
まのち安長五の年少く死す  
しるし

大権現より湯より少く死す  
同十四の年六十の歳少く死す

正秀

右京亮 中園同前

八歳少く死す

大権現より湯より少く死す

正秀

將軍より少く死す

家の級の輪の遠の



猪俣いのまた

猪俣黨いのまたのりの武列ぶりよく林形はやしがたの内猪俣いのまたの  
むまろ先さき祖そ累ついで付つけ地ぢと伝つたへ

則綱すなはちつな

小平六

家傳けだんよりいへば若猪俣わかいのまた小平六則綱すなはちつな  
頼朝よりより流ながれて名高なかつたり故ゆゑより孫まご

先祖の名字は祀一世々々六則總  
やし号とく

るるりけは信長よ流之信長豊て  
後奥列り一連居と

大権現本多信濃守より引てり  
翻付しつてまつるる後  
承て津輕宮内許り使と  
津將よとひと病死

則總

物右衛門

先祖の位名は禱とく物右衛門と  
改又後とく後歳十三とく

大権現り相賜り  
續とく

名徳院殿とく

將軍あり一はとく

家の級クニ鬼ウヂ下一場シノハ名ナ久キウトク  
小斗コト星ホシ并ナリ軍イクサ配ツケ園エン扇センとトはハく  
新ニ約ヤク平ヘイ家ケ追ツイ討トウのノ時トキ則スな總ソウ領リョウ中ナカ  
の前ノ目メとトうウらラ名ナとトうウ名ナあり  
是レふフとトりリてテ軍イクサ配ツケ園エン扇センとトあアけ  
けケらラくクれレらラ後ノチ園エン扇センとトあアりテ  
家ケのノ級クニとト他ノ嫡チヤク家ケとトうウらラ是レとト  
はハくク

猪俣いのまた

則種のつね

三年六

名述院殿なげつゐん

將軍家しやうぐんけ

寛永十年くわんえうじゆん 病死びやうし

別種

三年六

順名実名在ふ父と同

寛永十年歳十四り〜

將軍家下賜一法久〜

家の級

白地

下一幅

の色

永見

● 勝定

新之郎新集乃 甘國之河

大指現一川人そそくまう

長久の合戦乃 此歌陣よとひて

矢とをあらて 歌と射倒とを後

まゝ首級とけり 爰よとひて

大権現より乃我四と感一たまひ法  
弓敵とふりりりら力十誇弓  
同心五十人と詔ふまふ續く  
右法院殿より一川之よりまら  
天文八年より死む歳五十一法名  
光真

重成

新之助 新左衛門 牛田お務

實は今村義重長の子なり  
晴定が養子とありて家督をつぎ  
承見と稱す

右法院殿より一川之よりまら

大坂より陣より修す

寛永五年歩弓の取とあり

同七年より十騎弓同心二十人と

詔ふ

同十二年

將軍家より与力十騎  
持弓同心  
五十八人と新あやひし

重時しげとき

指七郎 生國なまくに長なが義よし

右近衛殿みぎのけのとのとよひ

將軍家より一ひと人にんとそまそまり

家乃いへ級ぐい永樂えいらく鏡かみ



實父じつふの系譜けいふ

今村いまむら

● 秀村ひでむら  
秀郷十二代

今村五郎

強弓つよゆみ乃射のや

重秀しげひで

源次郎

秀通ひでとら

今村赤部 此あひぐ中経ちゆうけい

勝長かつなが

今村赤部 生國三河墨崎くまざき

清康君 廣忠卿ひろちかとよび

大指現おほさしげん川がわくくくまら

之列このり野城ののしろとせひらと現城中

より歌寄うたよせ子こと射拂のりはら安やすよとひく

勝長かつなが矢やと矢倉やくらと射入のりいこ乃ゆへ

城中ちゆうじゆう飛ひとかかつらりのおほくま

歌遊うたあそびと矢倉やくらと退屈たいくつ勝長かつなが射赤のりあか

の矢やとぬぬとと

之列このり一向宗いっかうしゆう一揆いっぎの時志ときし節ふしとつ

追矢おひ城しろ初はつと戦切いくさきりありそとら倉くら

平左衛門へいざゑもん徳謀とくぼうとと信玄しんげん乃の矢や

之列このり引ひ入いまんとと勝長かつなが是

と少密よ

大権現乃と聞し一をなすむら

勝長作とけふまらりて念

と罪よおこなふしむらよひて

うの君んと鷹英一ふみ能地

くまふたまふ

開東津入國の時老年うた

しりて隠居と然といへも壯年

乃時切方よしりて武列小塚原

しとひと能地とたまふしり法役

とゆりさる

長長五年八十一歳少く死

法名法名

重長

長長 生國同家

いとけあさしり

大権現しり流人うまらり御

給仕書成りとし

之列 是為一とひく 里柳 甚茂

乞う 一揆と教んとし 重長

是とす 是甚茂とて

大権現のとす 忠節と

威トたまひ 甚茂 飲使あり

家財等とす 長藤 合我のと記 佐守とす 首級

とぬ

長久手合我のと記 又佐守とす

名とのら

名 徳院殿 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

大坂陣乃と記 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

級とぬ 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

寛永四年 七十一歳 一とす 一とす 一とす 一とす

法名 法順

心と

傳馬郎 生國を以て濱松

重成

新右衛門

事ハ書父の下ニ詳アリ

家の紋最丸の内ニ石墨

本筋

● 巫方

友方 出 國 孝 行

幼少りて父よりしりて松

下 考しありて 養育せられ

十一歳より記す

名 被 診 殿 一 相 湯 一 西 巻 紙

はとむその後たの代え友えの役やと流りとめ  
つわぐ

お軍家いーい流りくくままるる

巫ま春はる

友ともたたままのの生な國くにまま産う

お軍家いーい流りくくままるる

家いのの級き丸まるの内うち小こ万まん乃の字じ

正の  
的

萩原

沐右衛門 生國甲斐

信玄しんげんより一統いつとうふ小田原おだわら岩戸いわと野のの

城しろ守まもり教しゆ度と高たか名なとくらのら

取とりしとひとく忠ちゆう義ぎとほくと

く晴は信のぶより越こ後ご三さん



通とすまじり其寫よいしく  
し友なるおるは又各以相探歌  
成二之今一取落居辛勞程者  
深忠候可仕るや

八月十日

晴信正判

藤原深大守

今ナ下末刻於信列依久石  
那志賀城頭一笠原新之  
討捕之神妙人深二抽忠信志  
やの件

天文十六年 末

八月十日

晴信朱印

藤原深大守

し十<sup>ふ</sup>う<sup>の</sup>申<sup>の</sup>別<sup>の</sup>於<sup>に</sup>信<sup>の</sup>列<sup>の</sup>所<sup>の</sup>屋<sup>の</sup>  
原<sup>の</sup>頭<sup>の</sup>十<sup>の</sup>右<sup>の</sup>田<sup>の</sup>跡<sup>の</sup>今<sup>の</sup>討<sup>の</sup>捕<sup>の</sup>之<sup>の</sup>以<sup>の</sup>  
神<sup>の</sup>妙<sup>の</sup>以<sup>の</sup>之<sup>の</sup>一<sup>の</sup>之<sup>の</sup>之<sup>の</sup>回<sup>の</sup>以<sup>の</sup>ら  
遂<sup>の</sup>以<sup>の</sup>本<sup>の</sup>之<sup>の</sup>以<sup>の</sup>跡<sup>の</sup>一<sup>の</sup>抽<sup>の</sup>也<sup>の</sup>之<sup>の</sup>也<sup>の</sup>  
の<sup>の</sup>件<sup>の</sup>

天文十一年<sup>壬</sup>

八月十日

晴<sup>の</sup>作<sup>の</sup>在<sup>の</sup>判<sup>の</sup>

萩原<sup>の</sup>跡<sup>の</sup>左<sup>の</sup>右<sup>の</sup>の

昌<sup>の</sup>重<sup>の</sup>

右<sup>の</sup>右<sup>の</sup>也<sup>の</sup>

勝<sup>の</sup>頼<sup>の</sup>一<sup>の</sup>以<sup>の</sup>之<sup>の</sup>也<sup>の</sup>

大<sup>の</sup>指<sup>の</sup>現<sup>の</sup>之<sup>の</sup>以<sup>の</sup>之<sup>の</sup>也<sup>の</sup>

昌<sup>の</sup>世<sup>の</sup>

平<sup>の</sup>之<sup>の</sup>求<sup>の</sup> 中<sup>の</sup>國<sup>の</sup>武<sup>の</sup>藏<sup>の</sup>

将<sup>の</sup>軍<sup>の</sup>家<sup>の</sup>之<sup>の</sup>以<sup>の</sup>之<sup>の</sup>也<sup>の</sup>

家の級丸の内よ卍字

